

9月の安心かわら版

9月の主な行事

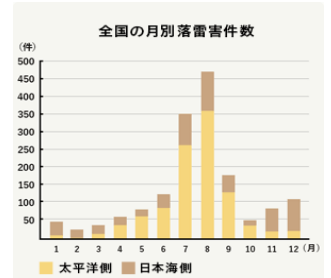
1日	: 防災の日	18日	: 防犯の日
2日	: 宝くじの日	19日	: 敬老の日
9日	: 救急の日	23日	: 秋分の日



知ってる？ 落雷から身を守る対策

雷について

雷は、雲の中で電気が発生し、プラスとマイナスの間に電流が流れたときに発生する現象です。雲と地上の間で放電が発生すると、落雷になります。日本では、2005年～2017年の12年間で1,540件以上の落雷が発生しており(※)、4月～10月は太平洋側で多く、11月～3月は日本海側で多くなる傾向があります。※気象官署から報告のあった落雷害の数。



雷の覚えておくべき5つの特徴

- 1 雷は、強い上昇気流によって、上空高くまで発達した積乱雲で発生する。
- 2 もくもくと成長する積乱雲が見えたときは、落雷への注意が必要。
- 3 雷鳴が「ゴロゴロ」と聞こえ始めたときは、今いる場所にも落雷する危険がある。
- 4 雷が鳴っているときは雨が降ることが多い。
- 5 雷雲（発達した積乱雲）が消滅するまでは、落雷のおそれがある。



雷から身を守る。落雷に備えよう

事前準備 落雷から家電製品を守るには

落雷により、室内の家電製品に過度の電流が伝わり、家電製品や電子機器が壊れることがあります。雷発生時に室内にいるときは、家電をコンセントから抜くことで対策をとることができます。また、外出しているときでも、異常高電圧や異常大電流等から機器を保護する「サージプロテクタ」を介してコンセントに接続することで、家電製品を守ることができるといわれています。

事前準備 緊急時のために、身を守る「姿勢」を覚えておく

開けた平地等、建物や車の避難場所がないときは、できるだけ姿勢を低くし、両足をそろえてしゃがむようにしましょう。その際は、頭を下げてしゃがみ込み、両手で耳をふさぐようにします。このような姿勢は、野外で雷から身を守るための「雷座り（雷しゃがみ）」といわれています。

発災直後 すぐ近くで雷が！ とっさに行う身の守り方

落雷の直撃の危険がある場合は、すぐに建築物や車へ避難することが大切ですが、万が一、周辺にそのような空間を探せないときは、電柱等、高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4メートル以上離れたところに避難しましょう。ただし、高い樹木の近くは危険がありますので、木から2メートル以上離れて、落雷の直撃リスクを軽減しましょう。

発災直後 屋外で雷に遭ったときは、いち早くリスク回避を

屋外で落雷のリスクを下げるためには、なによりもいち早い行動を心掛けましょう。遠くから雷鳴が聞こえ始めたときに、速やかに避難行動をとることが大切です。音は1秒間に約340メートルも進みますので、稲光を見てから音が聞こえるまでに少し間隔があったとしても、数キロ先では雷が起きている可能性があります。屋外での避難時は、雷鳴後30分たつて次の雷鳴が聞こえなくなるまでは、屋外に出ないようにしましょう。

秩父支店スタッフ ～よろしくお願ひします～



レジアスインパクト(株)秩父支店

chichibu@rezeous.co.jp

〒368-0024 埼玉県秩父市上宮地町26-21

TEL 0494-27-3210 FAX 0494-26-6555

事務所の電話番号も登録お願ひします！